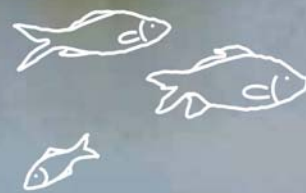


いのち  
生命にぎわう  
わ(環・和・輪)の湿地

# 麻機遊水地

asahatayuusuichi



麻機遊水地保全活用推進協議会



人と生きものの共生を目指す  
麻機遊水地  
保全活用推進協議会

麻機遊水地は、巴川の治水施設として昭和50年より整備がはじまりました。造成工事で掘り起こされたことによって蘇った、湿地性の植物や、池に棲む魚類、水生昆虫、それらを餌とする野鳥など、多くの動植物が生息・生育する湿地環境となっています。

この自然環境を保全・再生するために、平成16年1月に「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会(現:麻機遊水地保全活用推進協議会)」が設立されました。

## 麻機遊水地の昔



1958年(昭和33年)頃の写真(現在の第3工区)

麻機遊水地のある地域は、元来低湿地帯で浅畑沼(大沼)や小沼、武平淵といった沼地が散在していました。

その時代の沼にはヨシやマコモが生い茂り、クイナ、バン、ヨシキリなどの野鳥や多くの渡り鳥が飛来し、チョウトンボやギンヤンマなどの昆虫、ギンブナやモツゴ、ドジョウ、メダカ、ウナギ等の魚類が生息していたことが明らかになっています。

また、沼では伝統漁法の「柴揚げ漁」やカモなどの狩猟が行われ、人々は沼から豊かな自然の恵みを受けることができていました。

しかし、昭和30年代後半から食糧増産を目指した土地改良事業などにより、沼は優良な水田として整備され、徐々にその姿を消していきました。

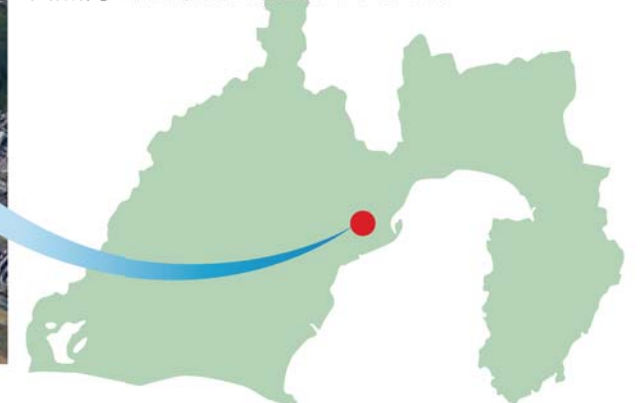
そして1974年(昭和49年)の七夕豪雨を契機に、洪水時の水位を下げるため、水田から遊水地への整備が始まりました。

## 自然再生の対象区域



麻機遊水地は、静岡市の中心市街地から北に約5kmのところの位置しています。

自然再生全体構想では、比較的良好な湿地環境が残る第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区の総面積約160haと、その上流部の巴川を自然再生の対象区域としています。



## 協議会の組織体制

### 総会

- ・会長
- ・学識経験者
- ・地域代表
- ・各部長、副部長
- ・行政

顧問

事務局

監事

### 部会

#### 自然再生部会

自然環境の保全、再生、創出、維持管理に関する協議及び活動

#### 地域活性化部会

緑地緑道等の計画やイベント、利活用を図るための協議及び活動

#### ベテラン麻機部会

障害者、高齢者等との共生社会を実現するための協議及び活動

### 専門委員会

総会：事業計画及び予算、決算、監事及び専門委員の選任又は解任、その他協議会の運営に関する重要事項の審議。  
 部会：協議会会員で構成し、協議会の目的を達成するため、麻機遊水地の保全及び活用についての協議及び活動を行う。  
 専門委員会：総会からの要請に応じ、麻機遊水地の自然再生についての技術的及び学術的知見から助言及び提言を行う。  
 顧問：協議会の運営に関し指導及び助言をするほか、総会に出席し意見を述べる事ができる。  
 事務局：協議会における、運営、会計処理、備品等の購入等に関する事務処理を行う。  
 監事：協議会における会計及び事業の監査を行う。

## 麻機遊水地のいきもの

### 植物

陸域ではヨシ、ススキなどが多く見られますが、湿地では珍しい湿生植物が生育しています。



オニバス(8~9月)



サクラタデ(8~10月)



ハス(7~8月)



ミズアオイ(9~10月)

### 魚類・爬虫類

ナマズ、モツゴ、クサガメ等の在来種が生息していますが、外来種に生息環境を脅かされています。



トウヨシノボリ



ナマズ



モツゴ



クサガメ

### 昆虫

池沼、草地、ヤナギ林など多様な環境があるため、様々な昆虫が見られます。



ショウジョウトンボ(4~10月)



チョウトンボ(6~10月)



コムラサキ(5~9月)



モンキチョウ(3~12月)

### 野鳥

年中見られる留鳥から、渡り鳥まで、年間約100種が確認されています。



アオサギ(通年)



オオヨシキリ(春~秋)



カワセミ(通年)



ケリ(通年)



公園予定地  
 あさはた緑地(第1工区):2018年5月一部完成  
 2022年度完成予定  
 浅畑緑地(第3工区):2023年度以降整備着手予定